

CDC Watch

2024
May

310

株式会社メディコン



矢野 邦夫 先生

浜松市感染症対策調整監
浜松医療センター感染症管理特別顧問

'81年 名古屋大学医学部卒業。名古屋第二赤十字病院、名古屋大学病院を経て、'89年 フレッドハッチンソン癌研究所、'93年 県西部浜松医療センター（2011年4月より「浜松医療センター」に病院名変更）。'96年 ワシントン州立大学感染症科エイズ臨床、エイズトレーニングセンター臨床研修終了。'97年 感染症内科長／衛生管理室長、'08年 副院長、'20年 院長補佐、'21年4月より現職。

ホームページでも、公開しています。

メディコン CDCWatch

検索



コンゴ民主共和国におけるクレード I mpox

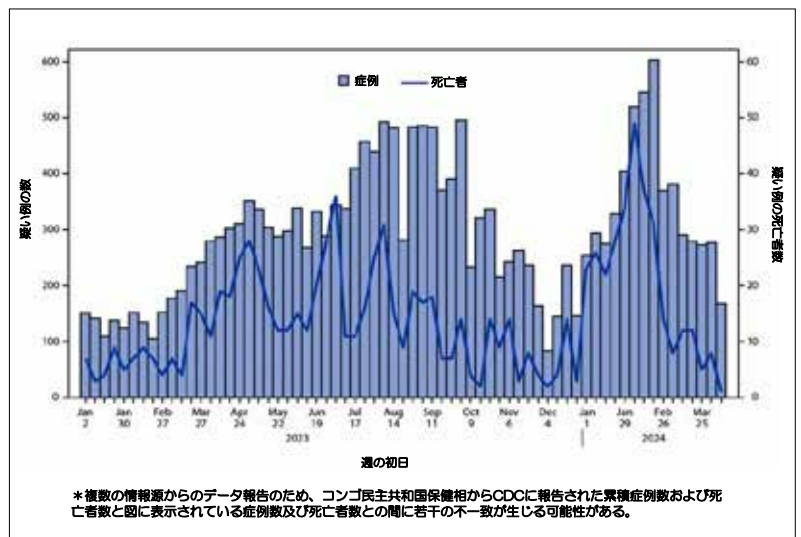
サル痘ウイルス (MPXV:monkeypox virus) はmpox (サル痘) [註釈1] の原因ウイルスである。MPXVにはクレード I とクレード II の2種類があり、過去にはコンゴ盆地系統群 (中央アフリカ系統群) および西アフリカ系統群と呼ばれていた。2022年からの世界的な流行はクレード II によるものであるが、最近、コンゴ民主共和国においてクレード I の増加が報告されている。今後、クレード I もクレード II のように世界的に拡大する懸念があり、CDCが警笛を鳴らしているので紹介する (1)。

はじめに

- クレード I MPXVは、コンゴ民主共和国を含むいくつかの中央アフリカ諸国で風土病となっている。一般的に、クレード I MPXVの致死率 (1.4%~10%超) は、クレード II (0.1%~3.6%) よりも高い。
- MPXVは「感染した野生動物との接触」または「MPXV感染者との長時間の濃厚接触」を通じてヒトに伝播する可能性がある。
- クレード II MPXVの世界的なアウトブレイクは、主に同性愛者、両性愛者、男性と性行為をするその他の男性 (MSM:men who have sex with men) の間での性的接触によって広がった。
- 2023~2024年、コンゴ民主共和国は前例のない数のクレード I MPXV感染 (疑い) を報告した。近隣諸国と国際社会は、コンゴ民主共和国のウイルス封じ込めの取り組みを支援するとともに、さらなる感染拡大の可能性に備える必要がある。

コンゴ民主共和国におけるクレード I MPXV の疫学

- 2023年1月1日から2024年4月14日までに、コンゴ民主共和国では複数の州レベルでのアウトブレイクが報告され、19,919人のクレード I mpoxの疑い例と975人の死亡者 (4.9%) が報告された (図1)。
- 2023年から2024年にかけて、クレード I mpoxは26州のうち25州から報告され、首都キンシャサからも初めて報告された (図2)。2件のアウトブレイクでは、クレード I MPXVの性感染がMSMと男性と女性の両方のセックスワーカーとその接触者の間で報告された。
- 全体として、疑い例の3分の2 (67%) と死亡者の4分の3以上 (78%) が15歳以下であり、生後12~59か月の小児が疑い例全体の28%を占めた (図3)。
- 患者の人口統計学的特徴は州によって異なり、一部の州 (例: 赤道州) では疑い例が主に15歳以下 (69%) に発生しているのに対し、他の州 (例: 南キブ州、キンシャサ州) では15歳以上が症例の最大の割合 (69%) を占めている。



*複数の情報源からのデータ報告のため、コンゴ民主共和国保健相からCDCに報告された累積症例数および死亡者数と図に表示されている症例数及び死亡者数との間に若干の不一致が生じる可能性がある。

図1. クレード I mpox 疑い例と死亡者数 *ーコンゴ民主共和国、2023年1月1日~2024年4月14日

- 2023年1月1日から2024年4月14日までに、コンゴ民主共和国の疑い例の50%が赤道州から報告された。この期間中、国内の他の地域で報告された致死率 (4.3%) と比較して、赤道州での致死率 (5.7%) が上昇していることも報告された。



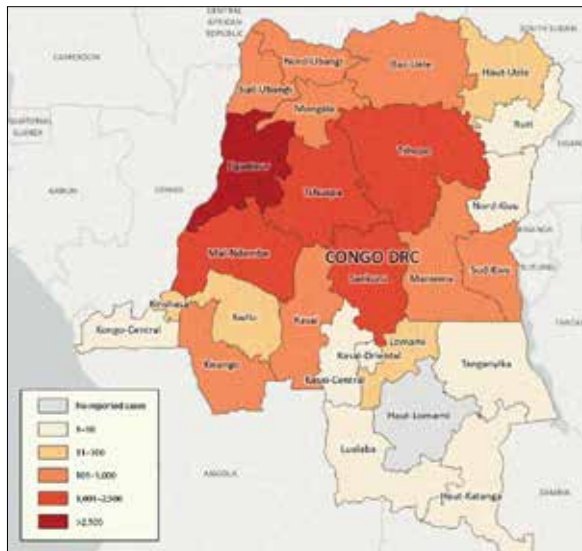


図2. 州別のクレードI mpox 疑い例の数—コンゴ民主共和国、2023年1月1日～2024年4月14日

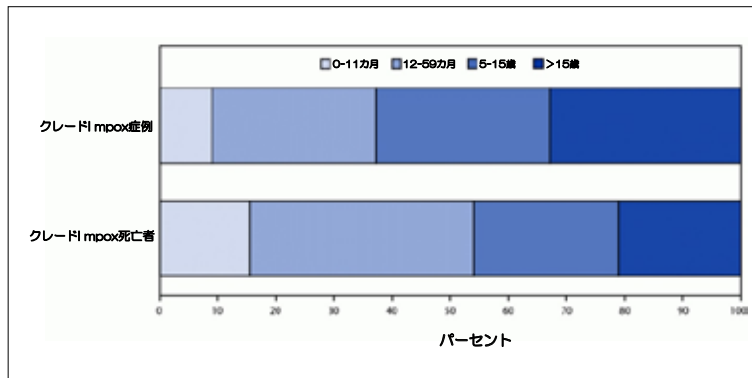


図3. クレードI mpox 疑い例と死亡者の年齢分布—コンゴ民主共和国、2023年1月1日～2024年4月14日

- 2023年1月1日から2024年3月24日までに検査された2,016検体（疑い例全体の11%を占める）のうち、1,302検体（65%）が検査で陽性と確認された。2024年1月1日から3月24日までの報告で、患者の年齢が報告された480人の検査陽性の症例では239人（50%）が15歳以下であった。

MPXV の伝播とアウトブレイク

- クレードI MPXV株の遺伝的多様性に関する限定的なデータによると、アウトブレイクはコンゴ民主共和国の国内での動物宿主からの複数回の導入によるものであり、単一の導入から全国に広がったものではないことを示唆している。しかし、家庭内での濃厚接触での伝染拡大が症例数に大きく寄与している可能性が高い。
- 人口動態特性とウイルスの遺伝的多様性の地理的差異は、異なる州での様々な伝播要因（人獣共通感染性、家庭内、性的など）を示唆しており、複雑な疫学的状況をもたらしている。

米国の公衆衛生準備と対応

- 2023年12月7日、CDCは健康警報ネットワーク通知を発行し、米国の臨床医に対し、コンゴ民主共和国に最近滞在していたmpoxの症状がある人に対して、クレードI MPXV感染を考慮するよう促した。また、CDCはコンゴ民主共和国に対してレベル2の旅行健康注意報 [註釈2] を発行した。
- 現在までに、米国またはウイルスが風土病ではない国では、クレードI mpoxは報告されていない。しかし、コンゴ民主共和国でクレードI MPXVの性感染が記録されていることを考えると、クレードI MPXVが米国に持ち込まれた場合、特定の性行為（複数の性的パートナーを持つMSMやセックスワーカーなど）に従事する人々ではリスクが高まる可能性がある。
- コンゴ民主共和国でのクレードI MPXVの感染は小児で多く報告されているが、米国では「①人獣共通感染症の病原体保有生物が存在しない」「②家庭の居住者が少ない」「③清掃および衛生リソースが広く利用できる」などの理由から、小児で広範囲に感染する可能性は非常に低いと考えられる。

考察

- 10年前、2014年の西アフリカでのエボラウイルスのアウトブレイクは、深刻なパンデミックの脅威に対する世界的な対応が遅れることに伴うリスクを実証した。
- 2022年のクレードII MPXVのアウトブレイクの際、米国は20年間の天然痘への備えに基づいて強力な国内対応を開始した。しかし、世界の公衆衛生コミュニティは、2016年には早くもナイジェリアでヒトからヒトへと広がっていたクレードII MPXVの脅威を認識し、封じ込めを支援する早期の機会を逃した。
- コンゴ民主共和国での最近のクレードI MPXVの伝播の増加は、ウイルスが緊急に封じ込められなければ、世界的に広がるという新たなリスクをもたらしている。MPXVが風土病となっている一部の国境を接する国々でのMPXVの報告の増加は、この懸念を裏付けている。

[文献]

1. McQuiston JH, et al. U.S. Preparedness and Response to Increasing Clade I Mpox Cases in the Democratic Republic of the Congo — United States, 2024 <https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/73/wr/pdfs/mm7319a3-H.pdf>
2. CDC.Travel Health Notices <https://wwwnc.cdc.gov/travel/notices>

[註釈1] サル痘ウイルスによるサル痘は、感染症法で認定されており、無症状病原体保有者、確定診断した医師は、直ちに届出を行う必要がある。

[註釈2] CDCは感染症の流行、特別イベント、自然災害時の世界的な健康リスクについて、旅行者にレベル1～4の旅行健康注意報（THN:Travel Health Notice）を提示している（2）。
レベル1（通常の予防対策を実践する）、レベル2（強化された予防対策を実践する）、レベル3（不要不急の旅行を再検討する）、レベル4（全ての旅行を避ける）

株式会社メディコン
カスタマーサービス www.bdj.co.jp/s/cs/

bd.com/jp/

BD, the BD Logo and all other trademarks are trademarks of Becton, Dickinson and Company or its affiliates.
©2024 BD. All rights reserved.

